

濤沸湖

(とうふつこ)

位置：北緯43度56分、東経144度24分／標高：1m／面積：900ha／湿地のタイプ：汽水湖／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区、国定公園特別地域／所在地：北海道網走市、小清水町／登録：2005年11月／国際登録基準：1、2、3、5、6

湿地のタイプ：汽水湖



湖畔に広がるアッケシソウ

湿地の概要：

北海道北東部のオホーツク海沿岸には、日本列島最北端の宗谷岬から世界自然遺産の知床半島にかけて、クッチャロ湖、コムケ湖、サロマ湖、能取(のとり)湖、網走湖、濤沸湖などの湖沼がつついでいる。

そのいちばん南にある濤沸湖は、先住民族アイヌの言葉で「トプツ(湖の口)」と呼ばれる湖である。砂洲の発達でつくられた細長い砂丘によって海と遮断され、湖の北西端でわずかに海とつながっている汽水湖である。周囲27km、面積は900ヘクタール。平均水位は約1.1mで、最深部でも2.5mときわめて浅い。渡り鳥にとっては絶好の環境にあり、中継地、越冬地として利用されている。

鳥がいつもいる湖：

ガンカモ類は毎年6万羽以上が飛来し、とくにオオヒシクイ、オオハクチョウ、ヒドリガモ、ミコアイサ、ウミアイサは東アジア地域個体群の個体数の1%以上を支えている。オジロワシ、オオワシも越冬におとずれ、日本では珍しいシマアオジの繁殖も確認されている。

湖岸の低地には塩性湿地帯が発達し、オオシバナ、ホソバナシバナ、エゾツルキンバイの群落 distributes、なかでも秋

に湖岸を真っ赤に染めるアッケシソウは、多くの観光客が見物におとずれるオホーツク沿岸湖沼群の人気者になっている。淡水湿地帯にはヨシ群落、ヤラメスゲ群落、ヌマガヤヤーヤチヤナギ群落、ハンノキ林が分布している。

湖にはコアマモの藻場が形成され、古くからスジエビ、ヤマトシジミやカキ、アサリなどの漁業がおこなわれてきた。漁業者たちは、稚魚放流や自主規制による資源管理型漁業をおこなっている。

原生花園：

濤沸湖西岸からオホーツク海につづく砂丘上の約8km、面積275ヘクタールの湿原植生群落を小清水原生花園という。春から秋には、ハマナス、エゾスカシユリ、エゾキスゲなど約40種の野生の花々が咲き乱れ、濤沸湖の美しい景観とともに多くの観光客が見物におとずれる。

これらの植生の維持、回復のため、開花前の春には毎年、野焼き(火入れ)がおこなわれている。

[アッケシソウ]高さ10～35cm。アカザ科の1年草。海岸近くの塩性植物のなかではもっとも耐塩性がある。厚岸湖で最初に発見され、この名がつけられた。秋になると全体があざやかな赤色に染まる。

濤沸湖と斜里岳



東から見た濤沸湖の全景



●関係自治体

網走市役所 Tel: 0152-44-6111
小清水町役場 Tel: 0152-62-2311

